

# 週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

&lt;先週の説教から&gt;

『詩編 46 — 神はわが櫓 (やぐら)』

武田真治牧師

詩編 46 : 1~12 ローマ書 8 : 35~39

説教前に歌いました讃美歌377番『神はわがやぐら』こそ宗教改革者ルターが作詞した讃美歌(1529年)です。彼はこの詩編46篇を元にこの讃美歌を作ったのでした。以来、この讃美歌は“宗教改革の戦いの歌”として歌われてきました。しかし、もともとルターは友人の死に際してこの讃美歌を作ったと言われていて、同じようにもとの詩編46篇も戦いの詩編ではありません。それは最初の言葉「神はわたしたちの避けどころ」にもよく表れています。戦いを奨励する言葉ではありません。ここで「避けどころ」と訳されている(マハセーハ)は「城・砦」とも訳されて来ましたが、もともと(ハーサー=身を隠す)から来ており、新共同訳のように「避けどころ」が本来の意味なのです。

ただ、この言葉を旧約のギリシア語訳である『70人訳聖書』では(エルピス=希望)と翻訳しています。この翻訳は聖書の信仰をよく表わしていると言えます。それは、困難な状況や悲惨な立場に立たされた時、その人が“避けどころ=安全に身を隠せる場所・保護してもらえる場所”を持っていることが生きる上では必要だという信仰です。そこで羽を休ませ、力を回復させることが出来、再び、歩き始めることが出来ると。その場所こそ私たちにとって「神様のみ許」であると。そのような「逃れの場所」が与えられているが(エルピス=希望)となるのだと。故に「苦難のとき、必ず助けをくださる。わたしたちは決して恐れない」と言い得るのだと。

この点は、新約聖書でも「神は真実な方です。耐えられないような試練にあわせることなく、耐えられるようにのがれの道を備えてくださる」(コリント一、10章13節)と書かれています。私たちは普段、逃れるとか隠れるという行動にはあまり良いイメージを持っていないかも知れません。しか

し、いつも真っ向勝負ばかりでは自分が壊れてしまいます。むしろ、何か大変なことや手に余りそうな出来事が起こった時に「身を隠せる・安心できる避難所」があるということはなんと安心できることでしょうか。そこで自分の体も心も整えてこそ、新しく歩み出せるのではないのでしょうか！

今の私たちにとっては、この「避けどころ」こそ《礼拝》ではないかと思えます。実はこの詩編の「主の成し遂げられることを仰ぎ見よう」の「仰ぎ見る」には、そのための場所が求められます。そこでこそ「力を捨てよ、知れ、わたしは神。」が分かると。この言葉は前の口語訳では「静まって、わたしこそ神であることを知れ。」でした。このことを“知る”場所は《礼拝》です。そして、その上でこそ「主は私たちと共にいます」と皆で讃美できるのではないのでしょうか。

\*\*\*\*\*

## 【今週の集会】

\*聖書研究・祈祷会 I. 10月9日(水) 20:00  
II. 10月10日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙

祈祷主題: 神学校日を覚えて

担当者: (水) 関根 (木) 東

祈りに覚える人: 兼川さん 金刺さん

## 【教勢報告】

主日礼拝 男19 女52 計71  
祈祷会 I. 男4 女2 計6 II. 男2 女11 計13  
日曜学校 幼稚科3 小中科7 計10

\*\*\*\*\*

## 【次週主日礼拝】 10月13日(日)

聖書: 申命記 6:10~19

ルカによる福音書 4:5~13

説教: 「ルカ24—目的のためには手段を選ばず？」

武田真治牧師

讃美歌: 12(1)、32、197、227、132、  
24(1)

## 【次週当番表】

司式: 茨木長老 奏楽: 須田 礼拝: 齋藤長老

献金: 寺本 富澤 受付: 鈴木 橋本

会堂準備: 飯島 岡本 金刺 中村

森本

看板: 岩佐 週報: 金刺 お花: 茨木

## 【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会

・聖歌隊練習

・壮年/婦人/ダビデ 各会

2024年 10月 6日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&amp;FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>